

## 会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 令和3年度第1回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 令和3年5月26日（水）午前10時から午前11時40分まで
- 3 開催場所 美里町駅東地域交流センター 大会議室
- 4 会議に出席した者
  - （1）委員 小野俊次会長、渡邊かおり副会長、角田フミコ委員、  
松田正敏委員、伊藤秀司委員、庄司哲広委員
  - （2）事務局 美里町長寿支援課 横山太一、菅井晶  
美里町社会福祉協議会 永沼威雄、高橋ゆかり、  
田村紗希、青木真理
- 5 議題
  - （1）開 会
  - （2）会議録署名委員の選出
  - （3）報 告
    - ①協議会委員の交代について
    - ②福祉関係事業所向け地域住民との交流・協議等に関するアンケート  
集計結果について
    - ③いきいき百歳体操について
    - ④暮らしの安心見守りサポートブックについて
    - ⑤地域の支えあいモデル事業について
    - ⑥生活支援コーディネーターの活動について

(4) 協議事項

- ①今年度の事業計画について
- ②協議会委員研修について
- ③その他

6 会議の公開・非公開の別  
公開

7 非公開の理由

8 傍聴人の人数  
0人

9 会議の概要

- ・会議録署名委員の選出  
渡邊かおり副会長、伊藤秀司委員

(1) 報告事項における詳細な意見

① 協議会委員の交代について、事務局高橋、永沼より説明	
	(特に意見なし)
② 福祉関係事業所向け地域住民との交流・協議等に関するアンケート集計結果について、事務局田村より説明	
小野会長	アンケートをとることは非常に良いことだと思います。各事業所が協力しよう、一緒にやりたいという意識を持っているということが素晴らしいと思います。 36事業所となっているが、町内にこの数の事業所があるということが良いですか。
田村	事業所はもっとたくさんあるが、同じ会社で5つの事業所を持っているというところには、その中の1つの事業所を対象としているので36事業所となっています。
小野会長	36事業所へ依頼をして、21事業所から返事が来たということであるが、すごく協力的であると思います。とてもやる気のある事業所が多いということだと思うので、利用していくことができると良いと思います。一緒に取り組んでいくことができるというのはとても良いと

	<p>思います。</p>
横山	<p>今までも介護保険サービスについて、介護認定を受けた利用者さんがデイサービスなどを利用したり、施設に入居したりすると、入ったらそこで関わりは終わってしまうということがあるけれども、実は入居した後も地域と関わる事ができたほうが良いよねという声もあったり、私たち行政の方でも、事業所がどう思っているのか今まで聞いてこなかったりというところがありました。結局そのままだと、住民の方も介護の施設があるけれども、何をしているところなのかかわからないという声もあります。一方で事業所も住民の方とつながりたいけれど、どう声を掛けたら良いかわからないという声が挙がってきているというのが今までの状況です。住民の方や事業所の方の声を聞かせていただきながら、商工会やシルバー人材、行政区長や民生委員にも相談しながら、事業所と地域をつないでいくことができれば良いなと思っています。</p>
<p>③ いきいき百歳体操について、事務局高橋より説明。</p>	
小野会長	<p>モデル事業としてではなくても、いきいき百歳体操を実施していきたいという行政区はたくさんあると思います。道具を貸出ししますということもあったと思うが、どうなのでしょう。</p>
高橋	<p>モデル事業の実施期間は貸出ししますとしていますが、7月に啓発事業を行った後に興味があるのでやってみたくて手を挙げてくださる行政区はあると思います。モデル地区ではないですが、私たちも協力させていただき、道具の貸出しを長くすることはできませんが、期間を定めて他の行政区と重ならないようにしていきたいと思っています。</p>
角田委員	<p>私たち民生委員協議会でも実施したいと思っています。民生委員は地域を歩くので、足腰を鍛えようということで月に1回集まった時にやってみることを検討しています。自分たちの体力を維持するためにもという意味もあります。備品は1セット3,000円位で買えると聞いていたので、コロナ禍で全く動けなくて予算の使い道もなかったので、重りを買ってやってみようかと考えていました。1セット3,000円位であれば、行政区で予算があると思うので買うことができると思います。100セットを購入するというものでもないと思うので、せいぜい20人くらいでの実施になると思います。あまり人も集められないと思います。集会所によっては密になってしまうと思います。モデル事業となるとハードルが高くなってしまっているので、気軽にできるものであるということも周知してもらえると良いと思います。</p>
高橋	<p>週に1回実施していくというのは、モデル事業の条件です。地域の実</p>

	情によって2週間に1回にしたり、月に1回にしたりしていただいて良いですが、週に1回だと効果的ですよというところです。
小野会長	不動堂地区社協では、今までカラオケ愛好会を行っていましたが。行うのに結構お金がかかっていました。コロナ禍で行えていないので、役員会はまだ行っていませんが、そのお金でいきいき百歳体操の重りを購入しませんかと話をする予定です。予定では50セット購入したいと思っています。なので、不動堂地区でいきいき百歳体操を実施する時には、貸出しできることになります。
高橋	1セット3,300円で、高価なものなので、なかなか予算をつけられない行政区もあるようです。例えばですが、100円ショップで、重りの調整はできないものではありませんでしたが、同じようなものが1つ100円、1セットだと200円でした。必ず3,300円にこだわらなくて良いです。他の行政区だと、重りを作ってみようというところもあります。得意な方がいるのでそうしようとなったようでした。重りを作る過程も地域の交流の場となるので良いなと思いました。
小野会長	モデル地区の2行政区の中に不動堂地区は入っていないですか。2行政区はどこなのか、差し支えなければ教えてください。
高橋	不動堂地区は入っていません。中埜3区行政区と、二又行政区です。いつから始めていくかは未定で、これから話し合いをしていく予定です。桜木町行政区は、モデル期間が終了して、自分たちで運営していくようになっています。
④ 暮らしの安心見守りサポートブックについて、事務局高橋より説明	
	(特に意見無し)
⑤ 地域の支え合いモデル事業について	
小野会長	先日の行政区長定例会議に説明に来ていただきましたが、行政区長の反応は、良いねという感じだったと思います。質問もなく、わかりやすい説明であったと思います。ただ、まだ持ち帰って行政区の誰とも相談できていないと思います。役員会もできていないと思うので。1か月くらいすれば出てくるかもしれません。もし、なければ、ピックアップして取り組むことができると良いと思います。
⑥ 生活支援コーディネーターの活動について、事務局高橋より説明	
	(特に意見無し)

(2) 協議事項における詳細な意見

①今年度の事業計画について、事務局高橋より説明。	
小野会長	<p>皆さんの方から、今年度の事業計画について何かご質問はありませんか。</p> <p>(なしの声)</p> <p>ないようなので、事業計画のとおり、進めていただければと思います。事業計画についての協議は終了したいと思います。</p>
②協議会委員研修について、事務局高橋より説明	
小野会長	<p>協議会委員の研修についてですが、年に1回今まで実施してきました。今までは、柴田町や登米市へ移動研修を行っていました。昨年度は涌谷町フォーラムに Zoom で参加しました。今年度はどのような研修が良いでしょうか。柴田町や登米市に行った時はとても勉強になりました。また、とても刺激をもらえるので、自分たちもやってみようかなという気持ちになりました。なので、移動研修はとても良いものだと思うのですが、このご時世なかなか難しいですね。今年度も移動研修は難しいと思います。講師を呼んで、ここで話をしてもらおうというのはどうでしょうか。そのような形だと実施できると思いますが。</p>
角田委員	<p>研修はなかなかできていないと思うので、講師の先生を呼んで行うのが良いと思います。テーマを決めることはなかなか難しいと思いますが。</p>
伊藤委員	<p>抽象的な話ではなく、実際に活動している人の話、具体的な話を聞くことができると良いと思います。実施してみて、成果があったという事例を聞きたいです。具体例を聞いてみて、やってみようかなという気持ちになるとと思います。</p>
小野会長	<p>講師を呼んで話を聞くということで良いでしょうか。</p>
	<p>(良いとの声)</p>
庄司委員	<p>移動研修ができるとう良いですが、難しいと思うので、先進地の方を呼んで、具体的な話を聞くのが良いと思います。</p>
伊藤委員	<p>第一線で活動している人の声だと、迫ってくると思います。偉い、地位がある人の話ではなく、むしろ現場で動いてきた、やってきた人の話だと非常にリアルで、現実的で良いと思います。良い人がいたら、聞いてみたいと思います。一方的ではない研修だとなおよいと思います。</p>
小野会長	<p>そのような人の話を聞いて、こちらから質問してというそのような場があると良いと思います。</p>
高橋	<p>研修のテーマですが、事務局で考えていたものがあったので提案させていただいてもよろしいでしょうか。</p>

(良いとの声)

今まで、地域福祉力 UP 情報交換会など町社会福祉協議会が主催で情報交換会を行ってきたり、暮らしのサポーター養成講座の中で生活支援についてグループワークで話し合ってきたり、多職種連携ワーキングの中で専門職の皆さんで話し合いをしたり、この生活支援協議会の中でも暮らしの中での課題や困りごとをたくさん話し合ってきたと思います。その中でたくさん話題に挙がったのが、移動手段の問題です。免許返納後のフォローであったり、移動支援の仕組みや、必要性についてもたくさん話題に挙がっていました。買い物に行けない人がたくさんいるということ、通院や買い物が大変ということ、日々買い物に困っている人に買い物をしてあげたいという声も挙がったりしていました。認知症を含む免許返納をした人に対しての移動手段のフォローが難しいというような意見もありました。ボランティアグループの情報交換会でも、移動の問題、移動支援についてもたくさん意見が出されていました。

町内で移動支援を行っていたボランティア山の神が、ボランティアの高齢化により、移動支援は令和 2 年 3 月に終了しました。なので、町内で移動支援を行っている団体はないという現状です。その中で情報交換会や地域の声を聞いて、今の課題だと考えたのは、移動の問題で困っているのはわかったけれど、何に困っているのか、具体的などころが不明確だということが見えてきました。なぜなのかと考えた時に、情報交換会や専門職の声は当事者の声ではなく、活動する人の声であるということに気がつきました。当事者の方の移動の問題で何に困っているのか、これから当事者の声、現状を把握しなければならないというのが課題となっています。

移動支援の仕組み、検討が必要だということがわかり、仕組みとして活動に発展させていくのは難しい問題であると思います。そもそも、どのような支援の方法があるのか、どのような活動があるのか、まだまだわからないところがたくさんあります。仕組みとして考えた時に、道路運送法や法律の問題や保険など基礎知識がまだまだ足りず、わからないところもたくさんあるので、学ぶ機会も必要であると思っています。全体として、今後実施していくこととして、1つ目が、当事者の方の声を聞く、把握していくために聞いていく必要があると考えています。あわせて現状、どのように対応しているのかも聞くことができると良いと考えています。どのように対応しているのかというところが、実は本当の支え合いの部分になるのかなと考えています。民生委員さんの高齢者世帯調査で各世帯をまわるということなので、民生

	<p>委員さん何名かに同行しながら、暮らしに関するアンケートの聞き取りを行えればと思っています。また、お茶飲み会等でも聞き取りを実施し、当事者の声を聞いていきたいと思っています。2つ目に、今後仕組みとして何をしていくと良いか考えていく前に、協議会の委員の皆さんと事務局が同じ方向を向いて考えていくことができるように、進めていくことができるように、どのような支援の方法があるのか、どのような活動があるのか知る機会として、委員研修の一つとして勉強会を行って行けたら良いのかなと思っています。当事者の声と、研修会をした内容を踏まえて、美里町に何が必要なのか何が課題なのか、移動の問題でできることを考えていくことができればと思っています。</p>
小野会長	<p>移動支援をテーマにして研修を行っていくのはどうかということでしたが、みなさんどうですか。ほかになにかありませんか。</p>
伊藤委員	<p>すごく良い問題だと思いますが、とても難しい問題でもあると思います。運送するというのは、例えば去年まで役場の広報をシルバーで配達していましたが、あれも運送法に引っかかって、資格を持った人ではないとだめだということになっていて、今は事業者が行っています。シルバーでワンコインサービスで買い物に行くとか、病院に連れていくとか行っているところがありますが、ここで一番問題なのが、交通事故が起きた時にどのような補償をするのかということなのです。移動手段については法律が絡んでくるのでとても難しい問題であると思います。実際私たちも直面しています。ワンコインサービスで行いたいですが、交通事故が起きた時のことを考えると、及び腰になってしまっています。都会の方だとなおニーズはあるようです。</p>
高橋	<p>実際にシルバー人材に移動の支援や買い物のニーズはあがってきているのですか。</p>
伊藤委員	<p>実際に今までの例ですと、あがってきています。お金を取るわけにもいかないので、お金をとってしまうと法律違反になってしまうので。</p>
永沼	<p>乗せて行ってほしいのか、買ってきてほしいというものかどちらでしょうか。</p>
伊藤委員	<p>買ってきてほしいというサービスはシルバー人材でも行っています。メモに書いてもらって、買ってくるということは行っています。</p>
角田委員	<p>このような問題について、地域と、町も取り組んでほしいと思います。町のバス事業を見ていると、町民バスは日中がら空きです。年間何千万と支払って業者に頼んで実施しているものですから、もったいないなと思います。タクシー並みの大きさの車で、何人か同じ病院に行く</p>

	人もいると思うので病院まで送ってくれるようなものなどがあると良いと思います。移動手段は、高齢になってくると、怖いなどと思ってしまいます。運転歴が長いからといって、安心して人を乗せられるというものでもないと思います。空バスを動かすのであれば、停留所を細かく設定し、多くの人に乘ってもらえるようにするのはどうでしょうか。バス停まで遠いという人もいます。やはりタクシーを使う人が多いと思います。駅前の人でも。
伊藤委員	行政には、何らかの形で今話を提案して行ってほしいと思います。
角田委員	あともう一つ、地域のボランティアがあるという点が良いと思います。町と地域と組み合わせていかないと、まるっきり地域頼みでは続かないと思います。ぜひ町と組んで実施していくことができると良いと思います。
伊藤委員	第1段階としては、もう少し細かくバス停を設置することだと思います。全ての時間帯ではなく、朝や夕方だけでも停留所を多くしてみると良いかと思います。
角田委員	朝は大きなバスでも学生が乗ったりしているため良いと思いますが、日中はすれ違っても誰も乗っていないとか、ガラガラであるとか特定の時間だけでも細かく停まっただけだと良いと思います。
高橋	昨年度、暮らしのサポーターで中卒の方々とバスの時刻表を作成しましたが、その中でも空のバスが結構走っているという声が挙がりました。ただ、そもそもバスに乗ったことがないよねという話であったので、空のバスが走っているのはわかってはいたけれど、実際に乗ったことがない、乗ることができるのか不安だということだったので、1回乗ってみようということになりました。乗ってみると、「次は〇〇です」という車内アナウンスがないことに気がつきました。ステップも最初は高いかなというイメージがあったが、実はそこまで高くなくて、スムーズに乗ることができました。一人で乗るということ自体がハードルが高く、一人だと不安だったりしたので、良い機会だったと思います。
小野会長	移動手段の検討について、研修のテーマとしてよろしいでしょうか。難しい問題がたくさんあるテーマであるということですが、よろしいでしょうか。
角田委員	知らないを進めていくことができないので、良いと思います。一番の課題であるということがわかっているので、知っていかないとその対処方法もわからないと思います。
小野会長	良い方法があればみんなで考えていくことができるので、県内などに



	移動支援をやってみて成功している事例はありますか。
高橋	宮城県社会福祉協議会で情報を把握していると思うので、確認してみたいと思います。
小野会長	伊藤委員も言っていたように、成功した市町村の話聞きながら、問題点なども把握していき、実際に行っているところの話聞きながら、美里町のできる方法で考えていく、この場で難しいことだと言ってもらちがあかないので、まず学んでいく、というように段階を踏んでいく方法で良いと思います。
高橋	講師の候補者について、これから事務局で調べてみたいと思います。
小野会長	おそらく県内でも取り組んでいるところはあると思うので、取り組み方法などを聞いてみたいと思います。
角田委員	そうですね、まずは話を聞いてみるるところから始めていきたいと思います。
小野会長	まず、知るところからですね。
田村	小回りが利くタイプの移動支援を昨年からはじめたところが富谷市です。ワゴン車タイプで、何ルートか「ここを通りますよ」という道を決めて、ここから乗る人を乗せていきますというやり方を始めたようです。行政で作った仕組みを社会福祉協議会で受託して、社会福祉協議会が動かしています。住民型で移動支援を行っているというところは県内ではなかなかないかもしれません。
横山	<p>実際に県内では、うまくいっている事例も多々あって、全国に広げるとかなりの所で移動支援について行政以外の住民の方や事業者の方みんな連携したりしながら行っている事例はあります。バスとタクシーだけではこの世の中難しいです。私たちも今日、車で来ていますが、運転免許を手放したときに、行きたいところに行けるのかどうかというところがあり、そこで自治会が主体となってやろうとか、社会福祉法人や民間の団体が保険の問題等も考えたうえで実施してみようというところがあります。その結果、病院に行きやすくなったとか、買い物に行きやすくなったとか、集まりに行きやすくなったとかというところは増えていっているようです。</p> <p>静岡県でモデル事業としてそのような取り組みを始めていたりしています。全国的に足の確保、なおさら認知症の問題もあって免許証の返納、免許を返さないといけなくなった後のことを考えると大変であったりして、そこを何とかしたいと様々な市町村で取り組んでおり、県内だと石巻市も取り組んでいるようです。視察に行った柴田町でも透析に行く時に町民の方が送迎をしてくれるということもあったと思</p>

	<p>います。保険なども住民の方が住民の方を乗せていく時向けの専用の車両保険なども最近では開発されたりしているようです。そのようなニーズが出てきたからこそ、お互い助け合っって乗せていくからという時に保険が効くように、保険会社も本腰を入れて作ったりしているようで、世の中変わってきていると思います。市町村職員向けの研修も増えています。そのようなところの人たちを引っ張ってきてお話をすることができる、こんなやり方があるんだなと知ることができ、情報を集めたりもできると思います。今だと、講師の人が東京の人でも、オンラインで話を聞いて、質問ができたりもしますので、そのような方法も良いと思います。行政の担当課がありますが、そちらとも少しずつ話をしながらバスだけでもダメですし、タクシーだけでもダメなので、一緒に考えられると良いと思います。</p>
高橋	<p>そう考えるとボランティア山の神さんはすごいですよね。</p>
角田委員	<p>バス事業もそうですが、町は住民の声をもっと拾ったほうが良いと思います。私の周りでも空バスでもったいないと言っている人がいます。年間どのくらいのお金がかかっているのかと聞かれることもあります。他市町村からしてみると、美里町はバスがあっっていいねと言われたりもしますが、美里町の住民としては、日中の1人しか乗っていなかったり、空のバスを見ている、目にしている、良い物とは思えないという現状です。そのため、住民の声をもっと担当課は拾うべきだと思います。やったらやりっぱなしはダメです。どのような成果があっって、どのような評価を受けているのか、ちゃんと拾うべきだと思います。もっと工夫、改善をしなければならない、もっと住民に乗ってもらわなければならないという努力をしてもらいたいと思います。</p>
小野会長	<p>様々な意見が出されましたが、今年度は移動支援について考えていきたいと思いますということにしたいと思います。やり方は様々ありますが。成功例なども聞きながら美里町にできることを検討していきたいと思っています。</p>
高橋	<p>研修テーマが決まりましたが、これから講師の先生を事務局でも検討しますので、7月に研修会を開催予定としていましたが、時期がずれてしまう可能性があります、よろしいでしょうか。</p> <p>(良いとの声)</p> <p>時期についてもこれから追っって連絡させていただきます。</p> <p>今ある支援や活動ではないけれど、地域で支え合っている方々はたくさんいると思います。移動支援の仕組みを考えていく時に、今ある支え合いは壊したくないので、仕組みができたから今までのものはなく</p>

	ても良いと思ってしまうのは怖いので、今ある支え合いを大切にしつつ、新しい仕組みを考えていくことができると良いと思います。 これからもよろしくお願いします。
小野会長	これで協議を終了します。
	(午前11時40分 終了)

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和 年 月 日

委員 \_\_\_\_\_

委員 \_\_\_\_\_